Title	日本の思想的伝統とキリスト教(共同研究報告 : グローバリゼーションの文脈における統合的日本研究)
Author(s)	小野澤, 信一
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-5 : 16-17
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2357
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

【グローバリゼーションの文脈における総合的日本研究】日本の思想的伝統とキリスト教

2010年1月26日、聖学院本部新館2階において、本年度第1回「日本研究」研究会が35名の参加者の下に開催された。講演者は、東京大学・総合文化研究科より黒住真教授をお迎えして、上記のテーマについての発表が行われた。概要は以下の通りである。

本研究会では、日本を中心にして、諸々の思想宗教の流れとキリスト教との関連を見ながら、古代から現代にかけての歴史的な状態・伝統を振り返りながら捉え、21世紀の問題を考えることをねらいとする。

はじめに、人類における思想・宗教の発生史がそれぞれ、枢軸時代、紀元後、中世、近世、近代、現代が、クロノロジカルに通観しながら紹介された。

次に、生きる営みや人間的な世界、天地人、宇宙、限界を超えるもの、自他関係、道徳と秩序など、基礎的なものの形成の経緯がそれぞれ説明された。

そして、本題である、「日本の思想的伝統とキリスト教」の関係が、それぞれ近世以前、近世以後、そして近代、現代とにわたって、当時の重要人物を数多く取り上げながらグローバルな視点と比較しながら説明された。

最後にまとめとして、日本の将来への方向が、日本でのキリスト教、仏教、神道の生活における構成がアジア的なグローバルな広がりと深みを

黒住真 東京大学大学院教授を迎え、日本の諸思想とキリスト教の関連についての発表を聴いた

もった、自然と関与する社会政治的秩序また宗教生活の形成であるべきであると指摘された。

質疑応答では、折口信夫や日本人の死生観、天皇制、死後の魂、一神教と多神教、などに関する、非常に幅広いバラエティーに富んだ議論が行われた。

（文責：小野澤信一　聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程）

（2010年1月26日、聖学院本部新館2階）